

徳武産業株式会社

「履ける靴がほしい」高齢者に真心を込めた商品で応える

おもてなし経営のポイント

- ❖ 靴を足に合わせるといふ顧客目線の考え方
- ❖ さまざまなニーズに応じていくための、継続的な研究開発



経営理念と企業文化

徳武産業株式会社は、歩行が困難な人や、歩行に不安を感じる人の「歩きたい」という思いを実現させるため、高齢者向けに介護靴および屋内外用靴の企画、製造、販売を行なっている。「戦中、戦後を支えてくださった方々に、最後まで元気に歩いていただきたい。歩きたくても歩けない方に、靴という人生のパートナーによって歩けるようになり、感動してもらいたい。革とゴムだけの無機質なシューズに、私たちの思いを吹き込むことで有機的なものにしたい」。そんな思いで靴をつくり続けている。もともと手袋メーカーとして創業したが、現社長の代になって、高齢者向けの靴の製造が始まった。介護施設の園長から「高齢者用の靴をつくってもらえなだろうか。高齢者の方を転倒から救ってほしい」と頼まれたことがきっかけだった。介護施設に行ってみる

と、歩行補助用装具を使っている人、片手が不自由な人、足が腫れている人やむくんでいる人、変形がある人など症状はさまざまで、左右で大きさや形が異なることも多かった。そのため、普通の靴を履くことができず、大きい足のサイズに合わせた靴を買って、片方の足には詰め物をしたり、靴下を何枚も重ねて履いたりしており、それが原因で転倒事故につながっていた。2種類のサイズの靴を買う人もいたが、倍のお金がかかってしまうと頭を悩ませていた。

現状を見た代表取締役の十河孝男氏は、「左右違う形、違うサイズの靴を販売する」と決めた。技術指導者に相談すると「そのような会社はいままでない。だれが買うのか。会社が潰れてしまう」と忠告された。しかし、高齢者の現状を伝えて説得。いまでは累計600万足の靴が、困っている高齢者のもとに届いている。

片方だけすり減った場合は、片

方だけを半額で売り、寒冷地には底にスパイクを入れた靴をつくるなど、細やかなニーズに対応している。また、オーダーメイドをより安価で提供するため、靴底の高さ、幅、サイズの調整に応じるパーツオーダーシステムを構築。継続的な研究開発によって、さまざまなサービスを生み出している根底には、「お客さまの『歩きたい』という思いを叶える」という理念がある。

講演者紹介



徳武産業株式会社
代表取締役

十河 孝男氏

1947年木田郡三木町生まれ。香川相互銀行(現香川銀行)、縫製メーカーを経て1984年徳武産業株式会社入社。1984年代表取締役社長就任。1995年に「あゆみシューズ」を発売。高齢者向けのケアシューズの製造販売をメインに成長を続ける。今年6月販売累計600万足を達成。2011年6月藍綬褒章受章、2012年3月四国でいちばん大切にしたい会社大賞「四国経済産業局長賞」、日本でいちばん大切にしたい会社大賞「審査委員会特別賞」受賞。

会社概要

- ・法人名: 徳武産業株式会社
- ・代表者: 十河 孝男 代表取締役
- ・所在地: 香川県さぬき市大川町富田西3007
- ・設立年月: 1957年5月創業、1966年9月設立
- ・ホームページ: <http://www.tokutake.co.jp/>

- ・事業内容:
ケアシューズ(高齢者シューズ)、旅行用スリッパ、ルームシューズ製造・販売
- ・社員数: 正規58名、パート・アルバイトなど3名